

## 第4回奈良 ESD 連続セミナー 概要報告

- ◇開催日時 平成 29 年 7 月 7 日 (金)
- ◇会場 次世代教員養成センター2号館多目的ホール
- ◇参加者 池見・大西 (飛鳥)、蔵前 (真美ヶ丘第 1 小)、山方 (都跡小)、北村 (御所市教育委員)、河野 (附属小)、新宮 (平城小)、中村 (済美南)、島 (郡山西小)、石田 (済美小)、中澤哲 (平群北小) 中澤敦 (きんき環境館)、栗谷、桑、谷垣、吉川、森本、田中、中澤 (奈良教育大) 計 19 名

### ◇内容 SDG s の目標の解説

#### 目標 1. 2. 3 (中村)

#### 目標 1 貧困を終わらせる

- ・ 1 日 1.25 ドル以下 (4371 円/年未満) で生活する極度の貧困の撲滅

国によって状況は違う。貨幣経済が浸透していない土地では、この物差しは意味がないのでは。

- ・ 日本での問題は相対的貧困

- ・ あらゆる次元の貧困を解消する。
- ・ マイクロファイナンス (小規模な金融サービス) による貧困層への効果的な投資と雇用の創出
- ・ 経済危機や自然災害へのレジリエンスの構築
- ・ そのための資源の動因を確保する。
- ・ ジェンダーに配慮した開発戦略とは何か?  
女性の地位を向上する。そのままでは女性は貧しいままにおかれてしまう。

#### 目標 2 飢餓を終わらせる

- ・ 女性・子供に焦点化した取組：栄養ニーズへの対処 (幼児、子ども、妊婦、女性)
- ・ 小規模食料生産者の農業生産性および所得の倍増

(食文化の) 多様性の確保・食料安全保障・地産地消

- ・ 生産性の向上において環境に配慮したレジリエントな農業の実践
- ・ 持続可能な農業の促進
- ・ 食料の自由貿易の促進 (補助金・関税の撤廃による)
- ・ 食料の適正な配給システムの構築
- ・ 貧困と飢餓の関係

貨幣経済の十分に運用していないところでは、貧困であっても、飢餓であるとは限らない。貧困イコール飢餓ではない。飢餓はより緊急である。

- ・ 種子バンク、ジーンバンクへの投資の拡大

#### 目標 3 健康、福祉の増進

- ・ 妊婦の死亡率 10 万人当たりの死亡者数を 70 人以下に  
(日本は 5 人、シエラレオネは 1360 人)
- ・ 新生児死亡率を減らす (世界平均値 1000 人当たり 19.2 人 目標は 12 件以下)
- ・ 非感染性疾患による死亡者数を 3 分の 1 に



- ・交通事故死亡者数（約 125 万人）を 2020 年までに半減
- ・UHC「すべての人が支払い可能な費用で適切な受診ができる」

#### 目標 4. 5. 6（石田）

##### 目標 4 質の高い教育

- ・グローバル・シチズンシップ（地球市民）責任ある行動をとることができる  
ESD との関連が特に書かれている。  
グローバル・シチズンシップも ESD も目指すところは同じなのか。  
シチズンシップ教育は人権教育へ重点がある。他領域への広がり弱い。ESDの方が広領域。
- ・質の高い教育とは何か？  
教員の資質・能力の向上が重要  
学習できる環境整備、経済力の向上も重要
- ・2030年の目標は目に見えないもの、2020年目標は目に見えるもの



##### 目標 5 ジェンダー平等

- ・女性の地位向上
- ・無報酬の育児・介護の認識評価だけでは弱いのではないかとまず認識するので OK なのでは？  
これは家族が介護する、育児するが前提になっている。高齢化は先進国共通の問題なので、システム的に構築すべきでは。  
介護から社会復帰できるシステムの構築。  
家族だけが担うべきではないのでは。  
家族がしてもいいし、できない場合も代替措置があるような社会がいいのでは。
- ・未成年の結婚  
人口増加の面からでは OK ではないのか。子どもの人権を尊重しているのであれば。  
親の都合による結婚を意味するのではないのか。  
成人の捉え方が国によって違う。

##### 目標 6 水と衛生管理

- ・生態系の保護も水の管理につながる
- ・2030年までに汚染の現象、投棄の廃絶と有害な化学物・物質の放出の最小化、水質改善
- ・水利用に悩む人々を減少させる

#### 目標 7. 8. 9（栗谷君）

##### 目標 7 エネルギー

- 1990年～2010年 新に 17 億人が電力を利用可能に
- 2011年 再生可能エネルギーが全世界の電力供給の 20%以上に  
5人に1人は電力を利用できない  
燃料に木材や動物の排せつ物を利用

エネルギーを使えなかった貧困層がエネルギーを使える貧困層になっただけ

①料金を払えるための貯蓄・インフラ整備

②クリーンなエネルギー技術が必要

木材の燃料利用はカーボンニュートラルなので、環境に良い面もある。

ただし、過剰な伐採が土壌劣化を促す。煙による健康被害もある。

再生可能エネルギーを利用できる環境の整備が重要。2030年までに再生可能エネルギーの割合を大幅に拡大させる。

どんな再生可能エネルギーが実現可能なのか

- ・現在は、風力発電が最も多い
- ・日本近海では黒潮を用いた海流発電の可能性に期待がかかる。
- ・原子力発電は、事故が発生したときの被害が甚大であり、容認できるものではない。

## 目標 8 労働

経済生産性の向上が重要であるとともに、働きがいのある仕事の提供も重要

2008年－2009年 極度の貧困層は劇的に減少

2015年 失業者2億400万人超 強制労働や奴隷制、人身取引もある

2030年までに、持続可能な消費と生産に関する枠組みに従い、経済成長と環境悪化の分断を図る

2030年までには働きがいのある人間らしい仕事を先進国にもブラックバイトなどの問題がある。

児童労働の禁止・撲滅（貧困の連鎖を生んでいる）

労働のため学校に行くことができない → 正規の仕事に就けない → 貧困

安心・安全な労働環境の促進

持続可能な観光業の促進

若者の雇用環境を改善する。



## 目標 9 インフラ

世界人口の半数以上が都市部で生活

約8億人は水へのアクセスがない

40億人がインターネットを利用できない。そのうちの90%は途上国

インフラ整備・情報と知識への平等なアクセスの確保が第一にすべきこと

※ 次回は8月22日（火）17時～ 次世代教員養成センター2号館多目的ホール

蔵前先生と池見先生のSDGsに関する発表

石田先生による「ESDと国語科教育」の発表です。

いつもと開始時間が変更になっていますので、間違えないようにしてください。